

環境モデル都市 円卓会議 会議録

部 会 名	環境学習円卓会議		記録者	山口(資料館)
開催回数	第2回			池崎(環モ推課)
開催日時	平成21年6月29日(月)19時00分～21時10分			
開催場所	あきば3階会議室			
出席者	所属	名前	所属	名前
	推進委員	大嶽	推進委員	久木田
	推進委員	田中	相思社	高嶋
	推進委員	山下	水俣自然学校	三村
	環境センター	宇田津	教育旅行プランニング	吉永
	水俣病資料館	山口	環境対策課	久木田
	市環境モ推進課	池崎	市環境モ推進課	草野
	出席者 計			12 名
欠 席 者	ほっとはうす	加藤	農林水産課	本田
			企画課	栄永
	欠席者 計			3 名
・今回がはじめての人もいたので、改めて自己紹介。 ○前回欠席した際に中国にいった。レジ袋が有料化されていた。 レジ袋が一種のステイタスになっている。大きい企業だと無料だが、小さい企業だと有料(2～3円)、厚みも違う。報告まで。公募で参加している。 ○教育旅行プランニングからの参加。 議題 前回の振り返りなど。事務局から説明。 ○各円卓会議の議事録について説明。ホームページにも記載している。 環境学習では、前回水俣の将来におけるイメージの話と今後どのように進めていくかということで、市民に向けた環境学習を考えて行こうということで、本日は話し合うにしている。 他の円卓会議では、「ISOのまちづくり」では、特に家庭版ISOについて話し合いがなされるのではない。「ゼロウェイスト」では、以前から話が進んでいたこともあり、給茶スポットなどの取り組みもなされているようだ。11月に行う環境フェスタに向けて、ゼロウェイスト宣言を行う予定のため、急ピッチで話を進められるとのこと。「自転車と公共交通」では、まずは、自転車共同利用システムの補助金がついたこともあり、自転車のまちづくりから進めていくとのこと。「食と農と暮らし」については、非常に範囲が広いこともあり、まだ話が進んでいないようだ。 推進委員会の報告としては、補助金の交付決定を受けて、3つの事業を開始しているという報告がなされた。まずは「自転車共同利用システム」ヨーロッパのベリブ等の取り組みを参考に、自由に自転車の貸し出しができるようなシステムを考えていくもの。次が「エコモデルハウス」環境にいい家作りを行いモデルハウスとして紹介していくもの。最後に「学校エコ改修(エコフロー)」学校の環境設備(太陽光発電など)を整備し、併せて、環境学習についても考えていくもので、ハードとソフトを併せていくものです。 質問・意見 ○自転車について、水俣駅やまつぼっくりなど既存のレンタサイクルについても協力できるので、伝えてほしい。				

○環境モデル都市のイメージ像。共通の認識を持つことが大事。どのようなことを伝えるのが環境学習か？例えば22種類の分別など問題点が多いが。

○分別の意味が分かっていないのではない。分別することによるメリットがわかっていない。上勝町では、水俣とは違い決まったステーションに持ち込む方法。そのことに違和感はない。ごみの行く先が分かっている。予算やCO2の削減など、情報を示すことが大事。

○どのようにして示すといいのか。

○以前多治見市の環境課にいた。そこではロビーなどで、ビデオを流すとか、市民の目につくところでやっていた。周辺にリサイクルの工場が多かったので行き先が分かっていた。

○(上勝町の資料配布)資料はエコパートナー熊本の際に宮北先生からもらった。

上勝町のは日本で始めてゼロウェイスト(ごみゼロ推進宣言)をしたところ。

最終処分場、焼却炉はいりませんということを宣言した。

市民行政企業に浸透している。どうやって周知するか。

循環共生社会が環境モデル都市。

事務局:民間行政の立場を超えて話をするのがこの円卓会議、意見を出してほしい。

○学習というのは、行政の立場だと啓発ということになるが、それだけではない。

3つの要素①習慣づけ:分別などはできている。②知識:なぜ行るか、行方はどうか、

③引き出す対話:話をしていく、調査をしていくなど。

○学習の仕方についてはもっとベクトルを併せていったほうがいいのではない。

今は、ごみの問題だけ出ているが、それだけでいいのか。

○ごみの話はゼロウェイストのほうで考えると思う。ただ、なぜやるのか、何のためためにということが市民に共有できていない。その部分では市民の学習が必要。

ごみだけに特化するのか、学習のシステムだけを考えるのか、決めた方がいいのでは。

○環境学習は全ての円卓会議に係ってくる。みんなの話し合いで方向性が見いだせればいい。

○それぞれが得意分野がある。それがミックスされていけばいい。

さっき高嶋さんの意見に賛成だが、もうひとつプラスして、感性を加えたい。

循環型共生社会とは、自然と共に生きる生物のことを考えていく社会でもあると思う。

○特化という話が出たが、渡しは取っ掛けだと思う。水俣の特徴と言えばごみ分別
それば行政主導でできている、ごみ分別の場所がコミュニケーションの場としてあるので、そこに情報を提供したりすれば。

○生きびんの不良率の話などは、現場のリサイクル員は知らない。説明が必要。

○分別の説明会は、リサイクル推進員全員の研修会を開催している。出席率が高いと思う。ただ、何年も続けているとマンネリ感もあり、なかなか伝わらないところに担当者の悩みがあると思う。

○モチベーションが保たれない。高齢者はごみを出すことが難しい。エデュケーションが教育が大事。

○水俣病が分別のきっかけといわれているが、違うのではない。課題もいっぱいある。行政主導に限界があるのではない。

○そういうことを解決するための学習の仕組み。いまごみの話だけが出ているが、どこに課題があるのか。このままごみの話をしていくのか。

○市民全てを対象視して考えるのは難しい。何が問題か、問題点を解決するためにどういう学習をしていくのか、仕組みづくりというよりは目的に向かって、近づいていく、解決策を見出していく方がいいのでは。

事務局:皆さんの意見を聞いているとごみの問題を中心に話をしたほうが分かりやすいのかと思いますので、その方法でいいでしょうか。⇒了承

○数値的なデータが必要になる。費用負担、行き先など

事務局：事務局で準備した方がいいですか。

○それは反対。それでは行政に頼ることになりはしないか。

○人によっては難しいのでは。水俣のことはニュース程度しか知らない。

どこをどう調べればいいのか分からない。

事務局：データのものは、今あるものを活用して提供する。必要があれば担当にお願いする。課題等は、誰でも考えられるので、そこを考えてきたらどうか。

○ごみの課題、減っていない、出す量を増やすと感現金が増える。当たり前になっている、財産だと思っていない、高齢者には負担、転入者に負担

○土日しか時間がないのに出せない。

事務局：仕組みについてはゼロウェイストの方で考えると思うが。

○仕組みについてどう学習させるかという視点でいけばいいのでは。

○ゼロウェイストに付け加えるような形でいい。

○分別するだけでなく、減らす工夫を。

○買った方が安いという現状は変えたい。

○がんばった人が儲かる仕組みづくりが必要。有料化とかはいいか分からんけど。

○分別の時間は決まっているのか？

事務局：地域で決めることになっている。

○：今はごみを出してくれる人がいるけど、将来どうなるのか、出したことがない人にどうやってつけていくか問題だ。

○上勝町のリサイクル率は80%で頭打ちになっている。いつか限界が出てくる。

事務局：次回までに、ごみの分別について課題を考えてくる。それに対する学習をどうしたらいいのかということもできれば考える。それを元に話を進めることでいいか。

データについては、次回までに送付するものとしたい。

データを見ていただいて、こんなものも見たいというものがあれば、そのときに話をしてもらえれば、探してみる。

平成21年8月5日（水）午後7時から 場所はあとで連絡